

- 1 事業名 令和2年度教育事業 「体験の風をおこそう」運動事業
賢治の学校 「小岩井農場物語」～賢治の見た風景を辿る～
- 2 趣 旨 岩手の偉人である宮沢賢治の青年時代の足跡を辿り、賢治の創作の基になった歴史的史跡や景勝地を見聞する活動や体験活動を通して、豊かな心情や自然への畏敬の念を育む機会とする。
- 3 期 日 令和2年10月31日（土）～11月1日（日）
- 4 参加者 岩手県内の大人6名
- 5 後 援 岩手県教育委員会、滝沢市教育委員会、雫石町教育委員会
- 6 協 力 雫石と宮沢賢治を語る会、小岩井農牧

7 内 容

(1) 日 程

10月31日（土）	晴天			10:30	11:00	11:30	12:30	13:00	15:00	15:30	17:00	18:00	19:00	21:00	21:30	22:30
	荒天		受付	開会行事	昼食	小岩井農場へ移動	～賢治の「春と修羅」 「狼森と笹盛、盗森」～ ・小岩井農場巡り ・狼森見学	～賢治の見た風景 ～荷替坂～旧鬼越池～燧掘山～新鬼越池～沼森～	テニパークへ移動	夕食	岩手山周辺の賢治の創作活動や足跡講話	講師との交流	絵手紙創作	入浴	就寝	
6:30 7:00 7:30 8:15 8:30 9:00 11:30 12:00 12:30																
11月1日（日）	晴天	起床 洗面・身支度 床	荷物整理 掃除	朝食	退所点検	雫石へ移動	～賢治の物語「化物工場」～ ・鞍掛山詩碑 ・賢治の夜行話 ・橋場駅見学 ・化物工場見学	テニパークへ移動	閉会行事	解散						
	荒天															

(2) 講師

- ・関 敬一 氏 (雫石と宮沢賢治を語る会)
- ・野沢裕美 氏 (小岩井農場資料館)

(3) 企画のポイント

「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」という宮沢賢治の言葉が岩手県民計画の冒頭県知事の言葉のタイトルとして挙げられている。賢治のその言葉に代表される「他人との関わり」や「繋がり」を大切にする県民性は風土の中で培われ養われた強みである。岩手県にあるナショナルセンターとして、地域や全国に発信できる教育テーマとして、「関わりや繋がりを大切にした学び」、つまり「過去（歴史）との繋がり、現在（いま）との関わり、（持続可能な）未来へ繋がる学び」を念頭に置き ESD を通して郷土や地域について学ぶこの事業を計画した。また、本施設の特色化として位置づける予定の「イーハトーヴ銀河プログラム」開発の試行的事業である。

○ESDの観点

- ・人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育むこと
- ・他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「関わり」、「つながり」を尊重できる個人を育むこと。

また、「イーハトーヴ銀河プログラム」は、岩手山周辺でその人生の3分の1を過ごした「宮沢賢治」をプログラムの視点に据える。賢治は、世界平和の希求、教育、音楽、鉱物（岩石）、土壌、植物、天体、フィールドワーク（体験活動）、文学、外国への造詣、信仰などに精通しており、小学校6年生の国語の教材「やまなし」の作者でもある。賢治を視点とし、感性（五感）にみる心象風

景を感じることができるプログラムは、多様なジャンルで拡充・開発することができる。

この春の事業では、賢治が友人達と大自然の中を歩いたり岩手山をはじめとする山々に登ったりした経験から、詩や物語の創作のヒントを得ていった「風景」を学ぶ体験プログラムにした。「宮沢賢治」という過去（歴史的偉人）に触れることで現在（今）の自分を見つめ、未来の自分の物語（ストーリー）に繋がっていくように、実際の体験地を訪れる経路を講師と共に企画した。このような事業を提供していくことで、施設の特色化を図り地域に必要とされる施設になっていくとともに、ナショナルセンターとして、代替の利かない唯一無二の存在へとなり得ると考える。

（４）広報のポイント

昨年度から事業実施に向けて、近隣の駅や公共施設にポスター掲示依頼をした。また、施設利用者に対して、チラシを施設内に設置し事業があることを広報した。

（５）運営のポイント

本事業は春・夏・秋と３つの特色をもった事業を実施予定であったが、コロナウィルス蔓延の影響もあり、事業日の変更を余儀なくされた。しかし、春の事業は岩手県内在住者に限定し、参加者も少数で実施するようにした。講師には、賢治が中学生時代に訪れ作品創作の舞台にもなった小岩井農場の資料館館長の野沢氏と盛岡高等農林学校時代の実習地がある雫石町で賢治の足跡に精通し自身でも様々な事業を企画している関氏を招聘した。

初日は、賢治の作品である「春と修羅」の舞台であった小岩井農場内を歩き、賢治とのゆかりについて講義を受けた。また、夜には賢治の生い立ちについて詳しく聞いたり、童話「虔十公園林」の読み聞かせを聴いたりすることで賢治の想いの深さを学ぶことができたようにした。二日目は、賢治の創作した詩碑を見たり、青年時代に何度も訪れた雫石町で体験した場所で講話を聴いたりし、賢治の創作活動の素晴らしさを体験できるようにした。

８ 成果とその普及

参加者を岩手県内の成人に絞り、少数で実施した。参加者には、賢治の生誕の地である花巻市出身の方が多く参加された。

小岩井農場では、賢治が体験した時代の建造物が重要文化財として残っていたり、今は使われていない当時の駅舎跡地や道を巡ったりすることで、賢治と想いを重ねることができた。感受性が強い人物であったことも童話の中から感じ取られ、賢治の発想の豊かさを感じ取っていたことが参加者のアンケートからも伺えた。

宮沢賢治の生地である花巻市周辺には、足跡を掘り起こした様々なイベントが行われているが、盛岡市・滝沢市・雫石町は賢治が多感な青春時代を過ごした地であり、創作活動のヒントを得たと思われる場所がたくさん存在するにもかかわらず、足跡が形に残っていない。この事業で幾つかの賢治にまつわる足跡を掘り起こせたことは大きな一歩であったと考えたとともに来年度のイーハトーヴ銀河プログラムの財産にすることができた。

９ 今後の課題

今回も、晴天に恵まれ全て予定通り実施することができた。万が一、荒天だった場合でも雨天決行と考えていたが、体験を通して趣旨を達成するために荒天時プログラムを幾つか用意しておく必要がある。また、参加対象をどの年代までにするか検討が必要である。



小岩井駅前での詩碑の解説を聞く参加者



天然の冷蔵庫前



賢治の人生講話を聴講している様子